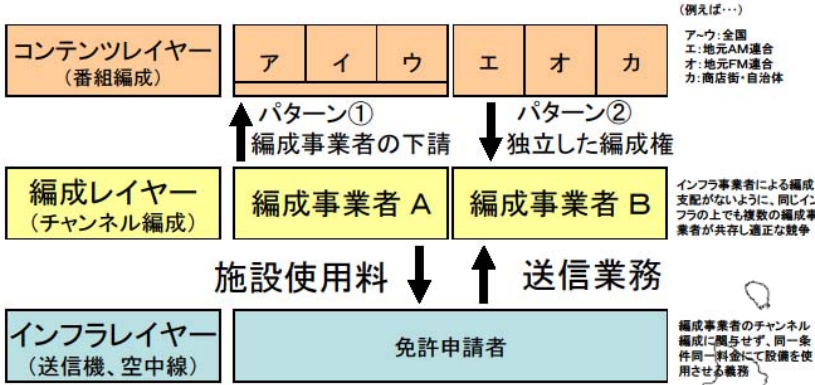
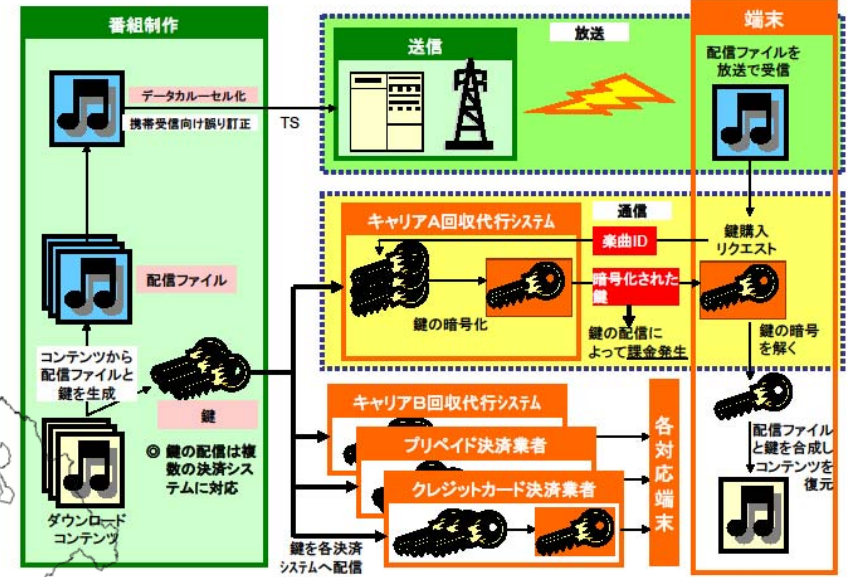


① 通信放送レイヤー体系の地域放送への適用

全国的コンテンツとローカルコンテンツの両立
ローカル編成が有用であるデータビジネスの確立

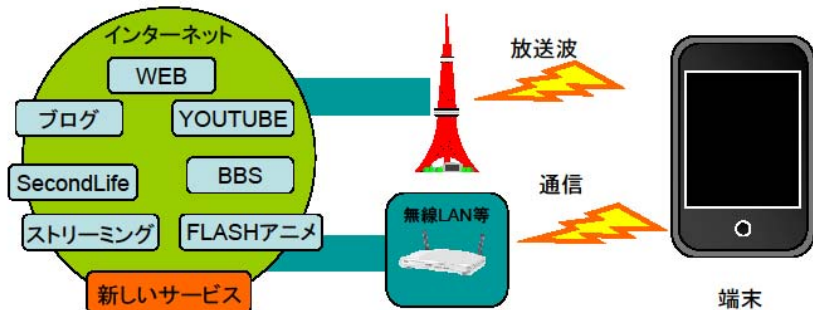


② 課金コンテンツのダウンロード配信の検証



③ 放送によるIP伝送 ~IP over Digital Broadcasting~

- 放送と通信のシームレスな利用が可能
 - IPマルチキャストのサービスであれば、どちらの経路でも同様のサービスが受けられる。
- インターネットの技術革新が放送にも適用される。
 - ⇒ 「進化する放送」の実現



④ 災害時の防災緊急情報の提供

地下鉄駅構内での配信実験

- 地下鉄構内の遮蔽空間に、地上波のマルチメディア放送を再送信する。
- 番組内容は地上と同一のものに加え、予めUSBメモリで各駅の送信サーバーに蓄積した固定「番組」と差し替える。固定「番組」は、各駅ごとに異なるオリジナルのものを制作。「非常避難路への誘導」など、緊急時を想定し、マルチメディア放送の特性が活きる静止画・動画を組み合わせたものとする。
- 駅ごとの固定「番組」は、緊急時に遠隔操作した場合のみ送信されるように制御する。

